

## 第8回南高教養アップ講座

講師 高知大学希望創発センター 副所長 大嶋 俊一郎 氏

演題 「高知大学希望創発センターについて」

【要旨】 「希望創発センター」は、全学部の学生と他業種の社会人が「生活者」という同じ立場で、個々人の個性を大切にしながら「当たり前を疑う」ことを核に「共に学び」、「現場に赴き」、「喧々諤々の議論」をとおして、この世界を深く理解し、未来への「期待」をより主体的な「希望」に変えて豊かな社会を創ることに挑戦しています。

担当より 「常識にとらわれていると新たな希望やイノベーションは生まれない」「多様な人々が集まることで常識を書き換えることが成し遂げられる」の理念の下、「希望創発センター」は立ち上げられました。今後求められる学びの姿や協働についてのヒントが得られるでしょう。

### 【生徒の感想】

- 私は、勉強は「しないといけないもの」と思っていたけど、勉強の原点は「なぜ？」と自分が感じるところにあって、それをじっくり考えることで楽しいと感じられるし、日常の中の当たり前を疑って考えることが楽しいことなんだとお話を聞いて思いました。勉強だけでなく、他のこともやらされているだけでは面白くないと改めて思いました。自主的に、自分のやりたいことを人と繋がりながら楽しみたいです。幸せになるかならないかは自分次第という言葉が印象に残りました。
- 私は、今回教養アップ講座を受講してみて、なぜそのようになるのかという疑問を持つことが学ぶことに繋がり、社会の希望へと繋がるということが分かりました。疑問を持たなかったら思考が停止し、考えることを止めてしまうため、深化していくことがないということを知り、なるほどなと思いました。また、すぐに答えを聞くのではなく、知識と経験を少しずつ積み重ねていくことで将来に繋がるということを知れてよかったです。
- 「人類に未来などない。あるのは希望だけだ」という言葉が印象に残った。希望なくして未来を実現することは難しい。希望の上に未来が成り立つのだと思う。また「当たり前を疑う」という言葉を大嶋先生は多く使われたが、自分たちの世代にはそれが必要だということが理解できた。今回の教養アップ講座では、自分に有益になることをたくさん聞けたように思う。来年からも興味のあるものには積極的に参加したい。
- 「未来がその胸中に在る者、これを青年と云ふ」かっこいい言葉だと感じたけれど、私はどうだろうかと思いました。今回のお話を聞いて、痛いところを突かれたような心地がしたのと、それ以上に新たな視点が開けたような気がしました。「モモ」のお話で時間の話が出てきました。私は高校生になってから中学校よりも忙しくなり、時間がないので数学の問題だつてろくに考えずに答えからヒントをもらっていました。効率的だと思っていたけど、本当にそれが効率的なことなのか、私が勉強をしたくないのは、そんな勉強方法ばかりやっていたからではないのか、もしかしたらじっくり考えて分かったらもっと楽しめるのかもしれないと、今までの自分の「考えてこなかった」生活を少し見直しました。それと共に、じゃあこれからは、もっと答えを理解する時間よりも考える時間を大切にしていこうと新たな視点が開けました。「未来が胸中

に」私は希望を持っていましたが、家族に否定されてそれをないがしろにしていました。この言葉で勇気をもらえました。初めて参加した教養アップ講座で、どんなものなのだろうかと思っていましたが、すごく考えさせてくれたいい機会になりました。

- 大学は高校とは違って自分が日常の中で“なんで？”と思うことを「哲学」的に考えることができるとも面白くて楽しい場所なんだということが分かりました。またその“なんで？”を自分の中から湧き立たせるためには高校でたくさんの知識や経験を蓄えて自然と好奇心が出てくるように学ぶことが大切なんだと改めて感じました。
- 「やらされている間はダメ」ということは、最近ひしひしと感じています。僕は最近部活動を辞めました。それから常に、何をしなければいけないのか、自分に何ができるのかということ深く考えるようになりました。部活動でスポーツをしているときは、ただ同じメニュー、同じことを続けているだけの感じでしたが、そうではいけない、一歩先、一歩先と進まなければと考えていました。今回の講座でさらに深くそう思えるようになりました。
- よく考えることはとても大事なんだなと思いました。「未来は既にある」という言葉がとても印象に残っています。既にあるけど、与えられて受け身のままでいるのではなく、自分で考えて未来に近づくことが大事だと思いました。知識や法則を身に付けたりすることだけが素晴らしいのではなく、考えること自体が自分のためになるのだと思います。考えたり、人と議論したりするのはとても楽しそうです。
- 高校や現代社会は資本主義経済であると思います。確かに「これ＝これ」となっていればストレスなく円滑に社会生活を送るうえで便利であるし、そうでなければ世界は回っていかないと思うので大切なことだと感じます。しかし、「そもそも」に立ち返り、立ち止まってしっかり考える時間を作ることを、人間として生まれてきたからにはしていきたいし、意味があると考えます。バランスを保ち、これらの人生や大学生活を頑張りたいです。有意義な時間をありがとうございます。高校では使わない思考を使えた気がします。高校教育にも考える基盤を作るという意味で今回のようなテーマを取り入れてほしいです。
- 私の今までの人生において“そもそも”これはどういうことだろうと深く考えたことがなく、今回の教養アップ講座により物事を哲学的に考えてみようと思いました。また、期待と希望は違うというお話にすごく心を打たれました。普段、言葉のささいな違いを考えて使うことがなく、これから何事も期待ではなく希望を持って取り組もうと思いました。大学に入って、好奇心と考えることを忘れずに、また人との繋がりを大事にして自分のしたいことに打ち込みたいと思います。大学は楽しいところだと聞き、今からとても楽しみです。
- 私は今回の教養アップ講座で、大学は哲学を学ぶところというお話が印象に残りました。志望校を決めていく中で、自分が何をしたいのかを考えさせられました。今、将来使わないだろうなどと思っている知識も、今後人と繋がって新しいものを作っていくためには必要となってくるんだなと感じられました。
- 私が最も心に残った言葉は「Up To You」というフレーズです。自分が将来幸せになれるかは自分自身によって変わり、どんな未来を作りたいかという希望を持ち、いかに

深く考えるかというところにあると思いました。大学で自分の興味あることを追求するときは、そもそもの全体の視点を忘れずに臨もうと思いました。また、「モモ」という本のお話も印象に残りました。産業至上主義で無駄な時間を奪われることで、楽しさがなくなり、じっくり考えられなくなるということにとっても共感しました。

○時間を節約することは「楽しいと思うこと」「夢中になること」「夢見ること」もなくしていることだと聞いてとても納得しました。時間をかけて探してみれば、楽しいことはたくさんあると思いました。また、日本の社会が宗教的から科学至上主義に代わっているというお話もとても共感しました。科学的に証明されていると聞いただけで納得し、それ以上を求めようとは思いません。これからは、全てのことに対してどうしてそうなるのかを根本的に考えていきたいと思いました。「人類に未来などない。あるのは希望だけだ」その通りだと思います。希望を持って自らで未来を作っていきたいです。

○今回のお話を聞いて「じっくり考える」ことの大切さを改めて実感しました。自分が行きたい大学に行くには、そのための効率的な勉強をしなければならないけど、じっくり自分の好きな分野や気になることを学びたいという気持ちもあって困っていました。大嶋先生のお話を聞いて、バランスをとることが大切だと分かりましたが、自分は不器用な人間なので、どうすることが最適なのかまだ悩んでいます。だから、これから高校生活を過ごす中で、少しずつ自分にあった方法を見つけていければと思います。とても面白かったです。ありがとうございました。